ウメモト インフォメーション

２０２４年 ８ 月 23 日　　担当　瀬谷

円相場、下げ渋る 145円台後半 日銀正常化を意識

23日午前の東京外国為替市場で円相場は下げ渋っている。10時時点は1ドル=146円08～10銭と前日17時時点と比べて82銭の円安・ドル高だった。10時すぎには一時145円69銭近辺まで下げ幅を縮めた。日銀の植田和男総裁が23日午前に衆議院財務金融委員会で経済・物価見通しの実現の確度が高まれば「緩和度合いを調整する」と述べ、金融政策の正常化が意識されて円買い・ドル売りが増えた。

日銀の植田総裁は、8月上旬に混乱した金融・資本市場について「引き続き不安定」としたうえで「極めて高い緊張感を持って注視する」などと述べた。市場では「（金融引き締めに積極的な）タカ派度合いは弱めているものの、7月の金融政策決定会合後に示した政策正常化に向けた姿勢は維持している」（国内銀行のストラテジスト）との見方があった。

10時前の中値決済に向けては、「ドル需要が強かった」（国内銀行の為替担当者）との声が聞かれた。国内輸入企業による円売り・ドル買い観測は円相場の重荷となった。

円は対ユーロでも下げ幅を縮めている。10時時点では1ユーロ=162円43～46銭と、同66銭の円安・ユーロ高だったが、その後ユーロに対しても円買いが増えた。ユーロは対ドルで軟調に推移し、10時時点では1ユーロ=1.1119ドル近辺と同0.0017ドルのユーロ安・ドル高だった。

引用記事　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　23　日　　担当　瀬谷

原油、反発　NY相場の上昇で　金は続落

23日朝方の国内商品先物市場で原油は5営業日ぶりに反発し、中心限月の2025年1月物は1キロリットル6万6840円と前日の清算値に比べ1220円高い水準で取引を始めた。22日のニューヨーク原油先物相場が上昇し、国内原油先物にも買いが波及した。国内原油相場は昨日まで4日続落していた後で、週末を前に短期的な戻りを期待した買いが入った。

原油需給の緩和懸念が後退しているのも相場を支えた。米エネルギー情報局（EIA）が21日に発表した週間の原油在庫統計では、原油在庫が市場予想以上に減少しており、足元の原油需給が緩んでいるとの警戒感が和らいでいる面もある。

金は3日続落し、中心限月の25年6月物は1グラム1万1715円と前日の清算値を37円下回る水準で取引を始めた。22日の米長期金利の上昇を受け、金利のつかない国内金先物の投資妙味が薄れるとの見方が売りを促した。

白金は反落し、中心限月の25年6月物は前日の清算値より52円安い1グラム4459円で午前の取引を始めた。

引用記事　　**日経新聞**

２０２４年　８　月　23　日　　担当　瀬谷

重いEVに負けぬ道路、花王が舗装改質剤　静岡で施工実証

ガソリン車よりも重くなる電気自動車（EV）が普及すると道路への負荷が増し、維持管理費用がかさむ懸念がある。ならば道路舗装の耐久性をアスファルトから高めようと改質剤の実用化が進んでいる。静岡県磐田市の施工現場や製造する花王を訪ねた。

JR磐田駅からほど近い磐田市中心部の中泉地区の市道が、2月23日深夜から翌24日未明にかけアスファルト改質剤を使って舗装工事された。

地元の石川建設（磐田市）が施工し、舗装に使うアスファルト混合物は中村建設（浜松市）や福田道路（新潟市）を経営母体とする磐田市内の製造プラント「イワレキ」から運ばれてきた。

舗装したての道路が黒々とみえるのは原油由来のアスファルトによるが、アスファルト混合物の9割超は「骨材」と呼ばれる石や砂。わずか5%ほどのアスファルトで骨材を接着している。

車の荷重による負荷のほか、夏場の高温や多量の雨水にさらされてアスファルトが溶けたりはがれ落ちたりすると、舗装が崩れて傷む。

イワレキでアスファルト混合物に加えられた改質剤「ニュートラック　5000」は、花王が強みを持つ界面活性技術でアスファルトと骨材との接着性を強めはがれにくくする。熱や荷重に対しても変形しにくくなり、耐久性が高まる。

アスファルト混合物に1%相当を加えるだけで耐久性は約5倍向上するという。

発売は2020年12月で、高速道路の駐車場やガソリンスタンド、駅前バス停など大型車の荷重のかかる路面への使用を想定。国内外で約40万平方メートルの施工実績がある。

原料に廃棄プラスチックのポリエチレンテレフタレート（PET）素材を用い、また舗装が壊れにくいためマイクロプラスチックの発生も抑えられるという環境への貢献も注目される。

EVを想定した施工の本格化は「これから」（花王）だが、車重がガソリン車の1.2～1.5倍となるEVの普及で道路への影響は見逃せなくなるとみる。課題は3割ほど高まる導入費用だ。

舗装が長持ちすればトータルコストを減らせるほか、磐田市では市内で出た廃PETを改質剤に再生する取り組みも始めて環境面の意義を発信する。

ウメモト インフォメーション

２０２４年　８　月　23　日　　担当　瀬谷

JALやセコマ、新千歳空港で廃食油原料の燃料を通年利用

日本航空（JAL）とコンビニエンスストア「セイコーマート」を展開するセコマ（札幌市）、豊田通商、千歳空港モーターサービス（CAMS、北海道千歳市）は22日、廃食油を原料としたバイオディーゼル燃料（BDF）の空港作業車両での通年運用を新千歳空港で7月から始めたと発表した。セイコーマートの店内調理で発生する廃食油を原料とする燃料を使う。

BDFは植物由来のため、燃やしても二酸化炭素（CO2）を排出しないとみなせる。廃食油をセコマグループ会社がBDFに精製し、豊田通商が配送。CAMSがJALの作業車両に給油する。航空貨物や手荷物を積んだコンテナをけん引する車両やフォークリフトなど計11台に使う年約2万リットルの燃料を軽油からBDFに置き換える。年間で約54トンのCO2排出を削減できる見込み。

4社は2023年8～11月に実証実験に取り組み、CO2排出量を約6トン削減した。気温が下がる冬期間にBDFが凍結し品質に影響が及ぶことが課題となっていたが、BDFと軽油を混ぜた燃料の使用や燃料タンクへの温風装置の設置で通年運用を実現した。またBDF専用タンクを空港内に設置し、実証時3台だった使用対象車両を増やした。

引用記事　　**日経新聞**

コスモ　堺製油所「A認定」 新保安制度　国内初の取得

コスモ

堺製油所「A認定」

新保安制度 国内初の取得

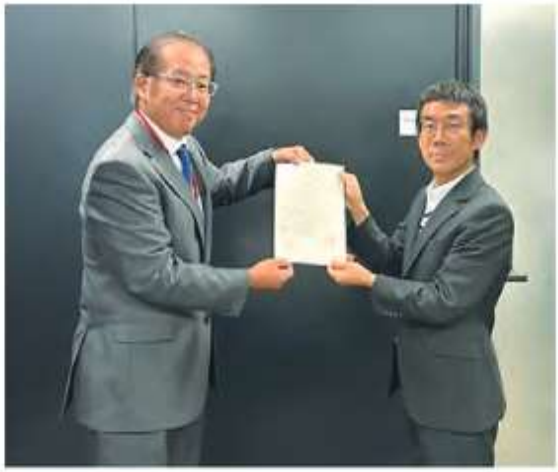
コスモ石油はこのほど、堺製油所が経済産業省の新保安制度「高圧ガス保安法における新認定事業者制度」で特定認定高度保安実施者に認定された。通称「A認定」と呼ばれるもので、新制度としては国内初の認定取得となる。

同制度はテクノロジーを活用しながら、経営トップのコミットメントや高度なリスク管理体制、サイバーセキュリティーなどで対応要件を満たす保安力の高い事業所を認定するもの。今回は設備の状態に基づいて自社で検査時期を決めることができるCBM（コンディション・ベースド・メンテナンス）適用も認定された。

コスモは2021年に千葉製油所、2022年には四日市製油所がそれぞれ従来制度でスーパー認定事業者とされており、堺製油所の認定取得により3製油所で事業者がリスクに応じて連続運転期間や検査手法を設定。よりリスクベースで効率的な事業運営が可能となり競争力強化につながると見込む。

春井啓克取締役常務執行役員堺製油所長は、認定取得に向けてチーム力による保安管理活動を軸に、人材育成の強化、リスク管理の強化、より実践的な防災訓練、現場のニーズに合致した先進技術の導入を進めてきたと経緯を振り返った。

そのうえで「サイバーセキュリティー対策強化など新たなリスク対応を踏まえて保安管理を進化させ、安全操業およびエネルギーの安定供給を確保。地域社会からの信頼を得ながら、石油精製業としての使命である石油製品の安定供給に努めていく」方針を示した。



認定書を手にするコスモ石油の岩瀬智取締役執行役員（左）

引用記事　燃料油脂新聞

２０２４年 ８ 月 23 日　　担当　瀬谷

ENEOS、根岸精油所で死亡事故

ENEOS、根岸製油所で死亡事故

ENEOSは22日、根岸製油所（横浜市磯子区）で死亡事故が発生したと発表した。21日に協力会社の従業員１人が倒れかかった重量物と架台の間に挟まれ、死亡した。今後に控える定期修理に向けて、圧力テストに使う部品を搬出する作業中だった。製油所の操業への影響はない。

事故原因は調査中。同社は関係官庁の調査に全面的に協力するとともに、再発防止に向けて安全管理を徹底するとしている。

引用記事　化学工業日報